

Document of “MINABI 2021”



自分のための巣をつくる

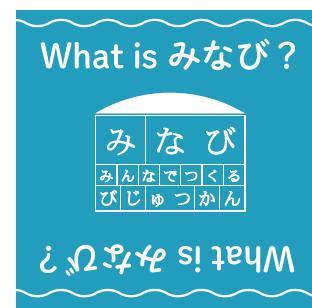
家を置いたどこ





## みんなでつくる美術館(みなび)とは、

大人も子どもも、障がいのある人もない人も、アーティストも、一般の人も、誰もが自由に参加して、楽しみながらつくり上げる事業です。今年度で 20 回目となりました。



2021年度20回目の「みなび」が開催されました。記念すべき開催ではあります、コロナ禍第5波の状況下、いったん決めた会期も状況を見ながら変更をしつつ、なんとか終えることができました。

「みなび」は、毎年のテーマとワークショップなどの告知から始まります。参加者の皆さんのお家で、展覧会に向けた共同制作を兼ねたワークショップなど今回も企画し実施されました。より多くの方が参加しやすい方法と環境を企画の段階から計画し実施するこれが「みなび」の特徴と言えます。

このような意味において、昨年から続く厳しい状況は20回を迎えるにあたりその総決算をしたような意味もあったのではないかと思います。

さて、2019年から村上慧氏にメインゲストアーティストとして参加していただき実施していました。今回のテーマは「自分のための巣をつくる」。村上氏が実践してきた活動が、現代の課題そのものであることが実感できる3年目の企画になったのではないかと感じています。それは、この活動を通じて「自らを発見するために、自分のための巣をつくる」それは「自分の巣をつくることで、自らを発見する」となるわけです。自らを見出せない集団ではなく、自らを見出した個の集まりとしての集団、真に繋がり支え合うために、閉じこもるための「巣」ではなく、繋がるための「巣」が出来たのでしょうか。この記録集を読みながらお考えいただければと思います。最後に、この様に厳しい状況下において、企画から運営に関わって頂いた皆様に感謝いたしまして、記録集巻頭の挨拶とさせていただきます。

みなび副実行委員長 伊藤 美輝(山梨学院短期大学教授)

# 2021 みなびテーマ 自分のための巣をつくる

「みなび」では、毎年テーマを設定し、それに沿った内容のプログラムを実施しています。今年度のテーマは、「自分のための巣をつくる」です。メインゲストには、2019・20年度に引き続き、「移住を生活する」などのプロジェクトを手がけて国内外で注目を集める美術家の村上慧氏を迎えました。

『巣』は、『家』よりももう一步、根源に遡るイメージと村上氏は言います。今回のテーマは、昨年度の「自分の家をよく見てみよう」というコンセプトと、一昨年度の「美術館に住む?」というテーマを融合させて導き出したということです。

## -プログラムと実施状況について-

### ① ホームワーク(作品募集の内容)

「自分のための巣」を家でつくって、写真を撮って、美術館に送ろう!

- A) 要申込。美術館が提供する素材・材料でつくる→41組／名参加→p.5
- B) 申し込み不要。家にある素材・材料でつくる→31組／名参加→p.5  
→送られてきた写真を印刷してギャラリー・エコーに展示した。

### ② ワークショップ「○○から△△を守る巣」

○○と△△に参加者がそれぞれ好きな言葉を入れて、それをタイトルにした巣をつくろう!つくった巣はつくった本人が美術館に展示する。

- ・講師： 村上慧氏
- ・日時： 8月7日(土)と8日(日)午前10:00～午後3:00
- ・対象： どなたでも(参加無料)
- ・定員： 各回5組(1組4名以内)
- ・場所： ワークショップ室

→申込者は両日で10組32名だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止。

### ③ つくろう!あそぼう!造形広場 みなびバージョン

- ・講師： 山梨学院短期大学保育科教授 伊藤美輝氏
- ・日時： 8月14日(土)①午前10:30～11:30 ②午後1:30～2:30
- ・対象： 幼児から小学生とその保護者(大人のみの参加可・教育福祉関係者参加可)
- ・定員： 各回8組程度(1組4人以内・付添含む)
- ・場所： ワークショップ室

→申込者は16組50人だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止。

### ④ 展覧会「自分のための巣をつくる」

・内容： 募集事業「自分のための巣」の応募作品(写真)と、ワークショップで制作した巣の作品や、美術館が制作依頼した団体・個人による巣の作品を展示する。あわせて村上氏の《家》や、最近のプロジェクトの写真なども展示し、3年間メインゲストとしてみなびを盛り上げてくれた村上氏を改めて紹介する。

- ・会期／場所： 8月10日(火)～8月15日(日)／県民ギャラリーC  
8月10日(火)～8月29日(日)／ギャラリー・エコー

→新型コロナウイルス感染症の拡大により内容・会期・場所を次のとおり変更。

・内容： 村上氏制作の《家》と「移住を生活する 2014年4月～2015年3月」の活動記録写真ならびに、募集事業「自分のための巣」の応募作品(写真)63点を展示。館内パブリック・スペースには、美術館が制作依頼した14の団体・個人による巣の作品を展示。→pp.3, 6～12

- ・会期： 9月14日(火)～10月3日(日)
- ・場所： ギャラリー・エコー、館内外パブリック・スペース

## profile

2019年度～2021年度「みんなでつくる美術館」のメイングストアーティスト。  
 1988年、東京に生まれる。2011年、武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。2014年4月より自作した発泡スチロール製の家に住む（移住を生活する）プロジェクトを始める。  
 2020年には「村上慧 移住を生活する」（金沢21世紀美術館/金沢市）が開催された。  
 その他、「瀬戸内国際芸術祭」（2016年）、「風を待たずに一村上慧・牛嶋均・坂口恭平の実践」（熊本市現代美術館/2017年）、「東アジア文化都市2018金沢 変容する家」（金沢21世紀美術館）「奥能登国際芸術祭」（珠洲市/2021年）などに参加。2016年、第19回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）入選。2017年、文化庁新進芸術家海外派遣制度によりエレブラー（スウェーデン）に滞在。  
 著書に『村上慧 移住を生活する』（金沢21世紀美術館/2021年）『家をせおって歩く』（福音館書店/2019年）、『家をせおって歩いた』（夕書房/2017年）などがある。

今回のテーマ「自分のための巣をつくる」について

新型コロナウイルスの流行が昨年に増して悪化しています。日々色々な情報が入ってきます。自分の生活が目まぐるしく変わる新型コロナウイルス禍の中に置かれ、直接影響を受けるという状態が続き、すこし疲れている人も多いのではないかと思いました。

そこで自分のためだけの場所を作ることを通して、自分の生活は自分のものであるということを思い出す練習になればと思い、今回「自分のための巣をつくる」というテーマを掲げました。

「巣」という言葉を選んだのは、「家」よりももっと自分の体に近いもの、社会的状況とは関係のないものを考えたかったからです。今回展示する作品は制作当時は「巣」とは思っていませんでしたが、今の状況では紛れもなく「巣」であると思います。僕は今年度一度も山梨に行けていませんが、みなさんの巣と一緒にこの作品を展示することで、「みなび」に参加できればと思います。

展覧会「自分のための巣をつくる」の展示

9月14日(火)～10月3日(日)



館内外のパブリック・スペースに14点の「巣」作品とともにギャラリー・エコーに村上氏制作の《家》と「移住を生活する 2014年4月～2015年3月」の活動記録写真、「移住を生活する 東京2020」(映像)ならびに、ホームワーク(募集事業)「自分のための巣」の応募作品(写真)63点を展示した。

「移住を生活する」は、自作した発泡スチロール製の家を担いで日本中を歩き、夜には敷地を借りてその家に寝泊まりするというプロジェクトです。今回はそのプロジェクトに約一年間使用した「家」と、交渉して借りた「敷地写真」を展示します。これは過去の作品ですが、僕なりの「自分のための巣をつくるプロジェクト」であると言えます。

振り返り

3年間「みなび」に関わらせてもらいました。それを振り返りつつ、今年度の活動について触れてていきます。

1年目は「美術館に住む？」というテーマで、参加者がつくった「家」を、館内各所に設置し、そこで過ごしてもらいました。美術館を自分の場所にしてしまおう！そしてその活動を通して、公（おおやけ）という概念について考えようという意図がありました。

2年目もこのテーマを継続したかったのですが、新型コロナウイルスが流行し、「集まる」のは良くないということになってしまいました。悩ましい事態でしたが、家にいる時間が長くなつたことに着目して「自分の家を見てみよう！」というテーマのもと「このドアをあけたら」という、オンラインワークショップを行いました。普段はただ過ごす場所であり、観察する対象ではない自宅のことを考えるためです。休日に外壁をDIYで塗装している光景が日本ではほとんど見られないことが象徴するように、家は「既製品」としてしか見られていませんが、そうではない捉え方を試みました。

最初の2年間で図らずも、公と私という相補的な概念について考える結果になりました。

そして今年度は「自分のための巣をつくる」です。昨年まで考えていた「家」ではなく「巣」という言葉を使いました。これは「家」よりも体に近い存在で、社会的な状況とは関係のないものです。

この単語を使ったことが良かったのか、集まった作品は非常にバリエーション豊かなものになりました。残念ながら文字数の制限上、一つ一つ触れる余裕はないのですが、それぞれの個人的な思いが詰まっていました。そしてやはり、個人的なものほど人に伝わりやすいのだなど、改めて確信することができました。前の2年間を総括する「みなび」になったと思います。

参加した皆さんや、作品を見た方々が「自分にとって居心地が良い場所」について考えるきっかけになれば幸いです。ありがとうございました。



A



B



自分のための巣をつくる展

## 1. 「はじまりの巣」

芸術の森公園で伐採された木を見て何か生かせないか。思いついたのがこの形です。

雨風、敵から身を守ることができます。手の指を組んだような「おかげみづくり」です。これに、茅、草の葉など被せると断熱効果もあり、家よりさらに原初の「巣」となります。

### 雨宮国広氏にインタビュー

Q：縄文大工に行きついたのは？

A：最初は、夢中で建築の技術を学び、伝統技術を守り伝えることが素晴らしいと思っていた。しかし次第に自分たちの命を縮め、しかも環境破壊を進めるモノづくりを一生懸命なぜやるのか疑問に思いはじめた。その時に石斧に出会った。石斧は理想の物づくりができる。人間中心主義で物は作れない、常に自然との対話、自然の許す中で自然にモノづくりをしたいと思った。

Q：今回のテーマについて

A：自分でも大工仕事の最中木組みは素晴らしいと思っていても、ミノムシの巣、蜘蛛の巣など見るとこっちの方が完璧と思う。そこで命をはぐくみ守り育てることができる。それが仕組みとして完璧。生き物は完璧な状態で生まれてきている。なぜそれを人間は信じないか。今のは魔法瓶、外の世界をシャットアウトしている。そんな家で育っていくと、体が弱り、免疫力を失い、本来持っている人間力を失う。

そういう事を今考えないといけないし、今回の巣作りは良い投げかけになった。原点に立ち返らないと見えてこないところがある。

雨宮国広（「縄文大工」）



### 一見した人が何のメッセージ

シンプルだけどなんかすてきです。

すべて自然のものをつかっていいな  
と思いました。

コロナの影響で、去年も今年も子供たちが思いっきり夏休みを遊べない状況です。

巣としてツリーハウスを作りました。

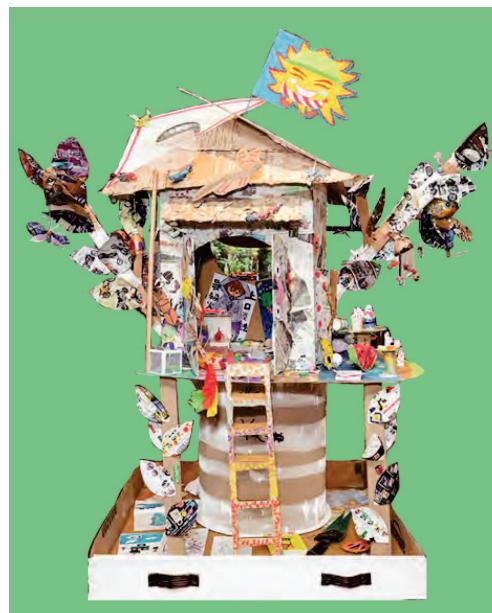
作った場所は、「子供部屋の机の引き出しの中」です。

ドラえもんが、のび太の机の引き出しの中から現れてくるイメージです。

お友達みんなと夏休み思いっきり遊びたい。そんな思いを机の引き出しの中にしまい込んでいたけど、突然大きなツリーハウスが飛び出してきた。

「これでみんなと思いっきり森の中で遊べるぞ。」

そんな日を夢見て。



## 2. 「みんなの夏休み」

美術教室アトリエたんざわ  
幼稚園から中学生まで約 60 名の共同制作

ツリーハウスの様でワクワクした。子供の頃こんなツリーハウスがほしかったです。

新鮮な巣だと感じた。個性がいっぱいでした。

### 3. 「抜け殻」

専門学校サンテクノカレッジ有志のチーム  
「アート×テクノラボ」

コンピュータコミュニケーション科・情報システム科・  
マルチメディア科の有志のメンバー

功刀智行 若月翔 原田優太 伊藤怜 上田佳奈 漆原優己  
黒澤沙織 小林果林 望月亮次 明間渉 飯野友梨  
稲葉宇宙 徳永茉珠 赤塚航一 市村理帆 小田切洸太  
OB: 柳濟光 亀井竜馬 加賀美雄大

セミの抜け殻のように中身を守っていた殻は「巣」のようなものではないか。

蛇が脱皮するように、人がストッキングを脱ぐように、コーティングされた「巣」を脱ぎ捨てる。

脱ぎ捨てられた巣は自立し、巣として機能してくれないか実験的に制作を続��ることで探していく。また、アートとテクノロジー両方を活かしたものづくりができるのかということも考える。

それぞれの面がかわいくきれいでした。  
みんなで楽しくきれいにつくられた巣を見てる人を幸せにしますね。



山梨学院短期大学伊藤ゼミ 2年生の保育科学生が制作した段ボールの家を、幼稚園児が毎日の生活の中で自分たちの「巣」にしていく活動をしています。今回の作品は、児童が関わり始めて1ヶ月の様子を見ていきます。展示が終わったら、再びその姿は変わって行きます！

家（巣）を日々変化させているのは、

山梨学院幼稚園の青組（年長児）3クラスと黄組（年中児）3クラスの児童の皆さんです。

伊藤雛姫、井上怜香、岩間萌楓、遠藤もも、大窪紗季、長田海優、小林帆乃華、鈴木詩織、田邊 韶、梶屋菜桜、堀内麻耶、三浦美桜、平塚さくら、三科くるみ、渡邊穂香



あそんでみたい。すごかった。  
いろいろな巣があってならべて遊んだりしたらおもしろそう。  
作品から楽しそうな笑顔がみえる！

### 4. 「子どもたちの生活場での巣作り」

山梨学院短期大学保育科  
伊藤ゼミ + 専攻科保育専攻

### 5. 「art house」

私達は日々アイディアをスケッチブックなどに描き出して作品を作っています。今回は『巣』をテーマとし制作するためそこから私達が日常で使用しているものを使って作品をつくることを決めました。この作品は、スケッチブックを土台としスケッチブックの世界に入り込んだイメージで自由に自分達のやりたいことをして制作していました。

床を絵の具でカラフルにしたり、日常で使う文房具などを配置したり、壁に大量の絵を貼ることでアイディアを出している自分達や、美術を楽しんで生活している自分達を重ね合わせ日常を詰め合わせたようにしました。

駿台甲府高等学校 美術デザイン科



絵をかいたりものをつくりたりするのが好きな人がつくれたんだなーということすぐ分かりました。ものづくりが好きな人の頭の中ですね。

スケッチブックという発想がおもしろくて、クリップ、けしづる、のり、絵が、細かくかわいくなっていたのでこの作品が気に入りました！



そこにいるだけで 海の中にも地上にも空中にも宇宙にも自由に移動できる巣です。大好きなどうぶつや仲間たちにいつでも会える心地よい場所です。

おおもりりん ひらがあおい うみのきほ いまむらかむい みねゆうと みかみひまり まるやまりゅうし かねまるいち かふじいけん やまだまさひ なかのきさき あきやまゆら さとうみつき いまむらいと ふるやたいち なかのはるき もちづきゆきな なかごみかいと なかざわゆうな いまむらいおる おおもりゆう なかむらさや おざわさら うみのきいち おたぎりそうや ばらざわひなか おざわいっき なとりはな おざわともこ

### 6. 「まだ だれにもはっけんされてない巣」

カワイ絵画造形教室  
と  
仲間たち

## 7. 「天空の巣・たまご」

山梨県立笛吹高等学校 美術部

いつも放課後に集まる美術室は私たち美術部員にとって、まるで我が家のように感じられます。その美術室に子どものための世界をつくりうるみんなでアイディアを出しあい、天空の巣をデザインしました。

この巣は、子どもが安心して過ごせるように、カプセルで覆い、中では楽しく遊べるような工夫を施しました。

カプセルの形は、安心できる形態を身の回りにある自然から探し、たまご形にしました。

たまごを雲に置いたのは、雲には包み込まれるような安心感があり、簡単には行けない空が安全に巣を作るには最適な場所だというイメージがあったからです。

また、子どもと大人の世界を区別するために、たまごの周りに無数の建物を置き大人が住む世界を表しました。

石原来望、中村百乃、渡部渓成、鹿島愛未、村松七音、佐野慎佳、古屋祐佳、宮川結衣、稻葉美咲、太田和里、濱田アリサ、宮野友揮、小林蒼生、菱山ひろ、大森瑚々奈、鈴木理央奈



私たち甲府第一高校美術部（一美）は、今回、落ち着く空間作りをテーマに「巣」プロジェクトに取り組みました。そこで、一美的メンバーで話し合った結果、缶の形状が落ち着くのではないかという意見になり、缶詰の形に決定しました。宇宙は、全ての生き物の原点、つまり巣です。なので中身を宇宙にし、宇宙の神秘的な感じを表現しました。

この缶はダンボールでできていて、これを丸くするのにとても苦労しましたが、先生のサポートやみんなで協力したおかげで、何とか私たちが思う巣の形にすることが出来ました。

この宇宙の缶に入って皆さんの心を落ち着かせ、また、楽しんで貢えた嬉しいです。

てんじょうがきれいでした。ちきゅうがすてきでした。まねをしてみたいです。すごかった。うまかった。

居心地が良さそう。ここにこもって、宇宙兄弟よみたいですね。

## 8. 「宇宙空缶」

山梨県立甲府第一高等学校 美術部

## 9. 「持ち運び型 巣」

山梨県立富士北稜高等学校建築デザイン系列 21名

代表・宮下 嶺太、坂本 宇央、高橋 花澄、林 舞華、庄司 望良

「巣」とは、安全なところである。

そのため校内のどこかへ設置するよりも、常に持ち歩き、身近にあることが「巣」本来の機能を果たすために重要だと考えた。

のことからヤドカリをモチーフとし、今回の巣を作成している。井桁のように組んだ段ボールを、ずらしながら積み重ねることで、巣貝のような形へ近づけた。系列ごとの授業が主体である本校の特性から移動教室が多いため、その都度背負って移動し、必要に応じて巣貝のような巣へ身体を収めて過ごしたいと思った。



カッコイイ！やはり巣も、これからは見た目、スタイリッシュさも必要ですね。自分の部屋の中に欲しいです。

すごいですね。つくってみます。

ビジュアルが可愛いし、持ち運びできる所がよい。発達障害の子供などの教室でのシェルターとして自然にとけこめるとと思う。

入ってみたいです。一人になりたいとき、ありますよね。



## 10. 「段ゴムシ」

甲工建研（山梨県立甲府工業高等学校建築研究部）

## 11. 「ひよこ」

### たまご教室

安藤楓 安藤暖 清水理名 金山大晟 金山依愛 五味零 山口心愛 内田ちか  
山口姫愛 近藤結月 石川遙大 高柳那月 高柳彩恵 早川翔英 叶遙陽  
高野慶次郎 佐野茉希



美しい山脈に囲まれ、それに調和し、生き生きとくらしている人々の家はどんな屋根をした家なのでしょうか、宝石の六角形をイメージしました。近年気候の大激変で大雨、洪水、熱波など世界各地で起きています。その原因である産業のあり方を変える脱炭素、脱原発、再生可能エネルギーが強く望まれております。甲府盆地には湖水伝説が伝えられております。甲府盆地の南部は最近まで沼地が広がり、農家には今も小舟が保存されております。ひょっとすると大雨や地殻変動で山梨に内海ができるかもしれません。ご用心ご用心。

中に書いてある言葉がおもしろかったし、ここにじっさいに入ってみたら樂しくいろいろなことができると思った。外のふんいきがおもしろくてすきだった。

部員全員が今までに経験したこと具体的に表したり、その記憶を抽象化したりしてつくりました。ステンドグラス風にしたのは、「光をたくさん取り入れることで、暗いことがあっても心に光が差し込んでいるように見えるのでは」と思ったからです。また、中に入ってすぐに見えるクジラは、3年生の中から「時の守り神」のような存在だという意見がでたため、大きく飾ることにしました。

このステンドグラス風の作品は、前年度まで美術部を指導してくださった先生のアイデアをお借りしました。内側から見ると、一つ一つに光が差し込んでとても美しいです。ぜひ、細かいところまで観察してみてください。

抽象化された思い出の形にぐっときました。

暗いことがあってもこの作品のようにぱに光をいっぱい取り込んで、前を向いてがんばろう！という気持ちになりました。



## 12. 「記憶の巣」

韮崎市立韮崎東中学校 美術部

## 13. 「一端をなす」

### 絵画造形教室アトリエさくら

朝比奈美有、浅沼香子、上條想実、小林心穂、洪引盛、益田桃花  
増山匠、宮下七緒、武藤早玖弥



「君が花の中に入ることで花は完成する。」

花の一部となって、花の温かみに包まれてほしい。」

居心地のいい巣をつくろうという考え方から、この作品は生まれました。

花はたくさんの人の恵みをもらいながら育ちます。

花の巣の中に包み込まれることで、共に成長していくようを感じてもらいたいです。

なかなか他にない発想で良かったです！お花のイメージがかわいいかった！

とてもかわいらしく、色と形で中に入りたくなる作品ですね。居心地良さそうです。



小学生の頃、段ボールでつくったとっても小さなスペース。部屋の片隅に置いて、出たり入ったりした。そこは自分の基地で、ワクワクしたのを覚えている。それはきっと、夢のはじまりだったと思う。

すごい！！

外壁、円装(?)、屋根についている飾り、小さな窓、どれもみな魅力的でばうばわれました。

## 14. 「夢のはじまり（僕の基地）」

本杉 琉（造形作家）



## みなびを振り返って – 2019年~2021年

雨宮千鶴

「みなび」は実施の方法を少しずつ変えながら今年度で20回目となった。2019年度に、これまで比較的長く続けていた誰もが申込なしで参加できるワークショップとその成果物の展示を核とした「みなび」を見直し、より来館者も楽しめる「みなび」を目指すため、メインアーティストとして村上慧氏を迎えた新たな「みなび」を開催した。その後、2020年度、今年度と村上氏を軸に実施したが、新型コロナウイルスの流行により、さらに新しい方向性を探る「みなび」となった。

村上氏との1年目は「美術館に『住む』?」をテーマとし美術館のパブリック・スペース各所に参加者が制作した「家」を展示し来館者と交流を深め、新たな出会いと発見が生まれ、これから美術館のあり方に対して、新たな扉を開くものとなった。2年目はコロナ禍において「自分の家をよく見てみよう!」というテーマで初めてウェブでの実施。「ステイホーム」という言葉が生まれ「集う」ことが難しくなり個が見つめた日常を寄せてもらっての「みなび」となった。そして3年目の今年は、自分のための「巣」づくりと発展した。事前にお願いし制作をしていただいた14件の個性あふれる巣作品の実物、メールで寄せていただいた63の「巣」作品画像、村上氏の家(巣)とそのプロジェクトの動画や写真の展示を行った。2年、3年目は、コロナに苛まれ今まで「みなび」が大切にしていた、人との関りを持つことがほとんど不可能になった。

「みんなでつくる美術館」の「つくる」は、展示作品制作、展示設営、運営などに関わることに重点を置いてきたが、最初の村上氏との「みなび」で鑑賞者にもアートを楽しむ心をつくる、アートを通じ豊かな生活を創ることが何より大切だと感じた。そして、誰もが気軽にそうできるよう仕掛け、それを可能にする場が、ここ「美術館」であり、今後の「みなび」のおおきな役割の一つだと思える。

この3年間、非日常的空间に日常を感じさせる作品が展示された。最初「家」の制作依頼をした時、ある高等学校の教師は「美術館でそんなことをしても良いのですか」と、問うてきた。「そんなことを皆で楽しめるのが「みなび」である。まだコロナを心配しながらの「みなび」の開催になるであろう。そんな中でも多くの方々の心が通い合いアートを通じ心豊かになれる「みなび」を開いていきたいと思う。

## みんなでつくる美術館実行委員

実行委員長 青柳 正規 (山梨県立美術館館長)  
副実行委員長 伊藤 美輝 (山梨学院短期大学教授)  
実行委員 島津 久美子 (山梨県立美術館協力員)  
田中 實 (山梨県立美術館協力員)  
中村 伸也 (公立小学校教諭)  
鈴木 つな (ダンサー)  
長谷川 創 (美術作家)  
監事 田中 静男 (書のたまご教室主宰)  
金原 あかね((株)SPSやまなし支配人)  
事務局長 井澤 英理子 (山梨県立美術館学芸幹)  
事務局 高野 早代子 (山梨県立美術館教育普及リーダー)  
小林 紀子 (山梨県立美術館普及担当)  
加藤 桂子 (山梨県立美術館普及担当)  
雨宮 千鶴 (山梨県立美術館普及担当)  
高橋 のどか (山梨県立美術館普及担当)  
青柳 茂 (pp.4、6~12、表紙裏表紙)

○後援  
山梨県造形教育連合／山梨県社会福祉協議会／NHK甲府放送局／山梨日日新聞社・山梨放送／テレビ山梨／山梨新報社／朝日新聞甲府総局／テレビ朝日甲府支局／産経新聞甲府支局／毎日新聞甲府支局／読売新聞甲府支局／日本ネットワークサービス／エフエム富士／エフエム甲府／エフエム八ヶ岳

○協力(敬称略)  
村上 慧  
雨宮 国広／清水 俊幸／中島 敏夫  
(有)ディスプレイ遠藤／島田プロセス／ぺkin堂／みくに画材店／山梨学院大学・短期大学／日本通運株式会社 山梨支店／(株)SPSやまなし

## みんなでつくる美術館 2021年 記録集

編 集 | みんなでつくる美術館実行委員 事務局  
(高野早代子 雨宮千鶴)  
デザイン | 櫻井ひかる  
発 行 | みんなでつくる美術館実行委員会 ©2022  
みんなでつくる美術館(みなび) 実行委員会事務局  
山梨県立美術館 学芸課内  
〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-4-27  
Tel : 055-228-3258 Fax : 055-228-3418